

## 1 水俣病の発生について

### 1-1 発生について(1)

Q 1 水俣病が発生した当時、魚以外にどのようなものを食べていたのか。

A 1 水俣病患者さんの多くは漁師で、海産物、特に魚や貝、海藻などをたくさん食べていました。魚以外では、畑で採れる野菜です。半漁半農の生活であったといわれます。

Q 2 最後に水俣病の発症を確認したのは何年か。

A 2 チッソ工場の排水処理施設が昭和35年1月に整備されたことにより、患者の発生は終息したといわれていますが、水俣病に認定された最年少の人は1965年(昭和40年)生まれです。また、メチル水銀による健康被害があると法律的に認められている人(水俣病被害者救済特別措置法の対象者)は、1969年(昭和43年)11月末までに生まれた人となっています。

Q 3 水俣病は、どのくらいの範囲まで被害が広がったのか。

A 3 水銀を含んだ工場排水を百間排水口から流していた時期は、水俣湾や周辺海域から患者が発生していましたが、1958年に水俣川河口沿岸の八幡残渣プールに排水先を変更したことに伴い、水銀汚染は不知火海全体に拡大し、水俣川から北側の地域や津奈木町、芦北町から患者が発生するようになったといわれています。また、芦北町や天草などの漁師は、水俣周辺で漁をすることも多く、水俣病の発生地域は広範囲に広がったと考えられます。

Q 4 魚への影響はなかったのか。

A 4 チッソ水俣工場から流れ出たメチル水銀を含む有機水銀は、魚や貝などの海洋生物を汚染しました。また、排水中の無機水銀もバクテリアの作用でメチル水銀に変化し、汚染濃度が高まりました。当時は、不知火海のあちらこちらにたくさんの魚が浮いていたといわれていますので、大きな影響があったと思います。

Q 5 水俣病はいつごろ、どこで発生したのか？現在はどうなっているのか。

A 5 水俣湾沿岸の出月(でつき)に住んでいた激しい脳症状を訴える当時5歳の女の子が、チッソ付属病院を受診しました。同院の細川院長は、「これまでに見たことのない原因不明の病気が発生した」と1956年5月1日に水俣保健所に届け出て、この日が水俣病の公式確認日となりました。その後、調査が行われ、水俣湾沿岸域に同じような症状の人がおり、多くの人が亡くなっていたことが分かりました。公式には1953年が第1号患者の発生年とされていますが、カルテ上では1947年に発病したという人も確認されています。現在は、水銀を含んだヘドロの埋立工事などにより環境復元が図られ、安全性が確保されていますので、水俣湾で獲れた魚を食べても水俣病の症状がでることはありません。

Q 6 水俣病が発生してどんな被害があったのか。

A 6 メチル水銀によって多くの人が死亡・障害・健康を害するなどの被害を受けた外、水俣病患者が確認された当初は原因が分からず、伝染性の病気ではないかとの間違った認識により、地域社会から疎外され、いじめや差別を受けるなど、患者やその家族は大変苦しい思いをしました。また、極度の貧困、補償への妬み、海産物や農産物への風評被害など、患者のみならず地域社会にも大きな被害をもたらしました。

Q7 どれくらい魚を食べると病気になるか。

A7 一般的には、メチル水銀を25ミリグラム（1グラムの40分の1）で水俣病が発生するといわれています。汚染が深刻だった当時は、1キログラムの魚にメチル水銀が12～25ミリグラムくらい含まれていたといわれています。

世界的な基準では、妊婦の毛髪水銀値が12ppm以下ならば、生まれてくる赤ちゃんに影響はないとされています。

Q8 水銀が海に流れ込み被害がひろまったのか。

どうして、水俣病はそこまで広がったのですか。

A8 水俣病の原因物質は、メチル水銀です。アセトアルデヒドを製造する工程のなかで、触媒として使用していた無機水銀が化学反応の過程でメチル水銀に変化し、工場排水と共に海に流されました。その当時の日本は、経済成長優先の政策がとられており、工場排水は無処理のまま排出されていました。

工場排水は、当初、百間排水口から流していましたので、水俣病は水俣湾沿岸域及びその周辺から発生していましたが、1958年に排水口を水俣川河口沿岸の八幡残渣プールに変更したため、水俣川の北部地域や津奈木町、芦北町からも患者が発生するようになったといわれています。また、1959年に熊大研究班は、有機水銀が原因物質で工場排水が疑わしいと発表しましたが、その後も有効な対策や工場排水への規制がされることなく、アセトアルデヒドの製造は1968年まで続けられました。このような理由により水俣病は広範囲に広がったと思います。

Q9 汚染された魚とそうでない魚を区別するにはどうしたらいいですか。

A9 水銀に汚染されていても生きがいい魚は、汚染されているかどうかを見分けることは困難と思います。検査・分析するしかないと思います。

Q10 他の県でも水俣病にかかっている人はいるのか。

A10 不知火海の魚介類が汚染されていたので、不知火海に面している鹿児島県にも水俣病の方はいます。また、水俣から他県へ移り住んだ人たちの中にもおられます。1965年には、新潟県の阿賀野川流域で新潟水俣病が発生していますし、海外では、中国やカナダで水銀中毒の報告があります。また、アマゾンやタンザニアでは、川や湖の水銀汚染により人への影響が心配されています。

Q11 不知火海の魚はどう扱われましたか。

A11 鮮魚店に「水俣産の魚は売っていません」といった張り紙が掲示されるなど、水俣産の魚介類は売れなくなりました。また、水俣湾を仕切り網で囲い、内部の汚染魚を漁獲して埋立地への埋め立てなどが行われました。水俣以外の地域では、それまでと同様に漁業が行われていたと思います。

Q 1 2 なぜ新潟でも同様なことが起きたのか。

A 1 2 1959年には、水銀を触媒に使うアセトアルデヒド製造工程からある種の有機水銀を副生し魚介類を汚染することが分かっていたにも関わらず、当時の政府が有効な対策を行いませんでした。そして1965年に新潟水俣病が確認されました。新潟県にある昭和電工鹿瀬工場は、チッソと同様に水銀を触媒に使う方法でアセトアルデヒドを製造しており、工場排水を処理しないまま阿賀野川に流していました。阿賀野川に流れ込んだメチル水銀は、プランクトン、小さな魚、大きな魚へと食物連鎖により濃縮され、その魚を長い間たくさん食べた人達が水俣病になりました。特に、阿賀野川が平野で流れが緩やかになった阿賀野市から下流域で多くの水俣病患者が発生しました。